

令和四年度 新潟県立十日町看護専門学校

戴帽式 校長式辞

新潟県立十日町看護専門学校第2期生38名の皆さんは、看護の心を引き継ぐ戴帽式を迎えました。誠にめでたうございます。ご両親はじめご家族様にも心からお祝い申し上げます。本日は新潟県看護協会会長の斎藤有子様はじめ、臨地実習を引き受けていただきます8病院の看護部長様にご臨席を賜りました。これだけ豪華な顔ぶれの先輩が揃う戴帽式は前代未聞のことと存じます。その前で2期生の皆さんは決意を宣誓することができました。関係者や地域の皆さんの期待の大きさをひしひしと感じ、誠に光栄に存じます。そして皆さんの期待は会場にいる第1期生、第3期生や教職員にも勇気を与えています。心から感謝申し上げます。

戴帽式には諸説ありますが、本格的な実習に出る前にナイチンゲールに代表される看護の心を引き継ぐ儀式と言われます。長い看護の歴史や文化、そして看護の倫理や哲学を受けとめて看護師になる際の志を誓う大切なイベントです。本日は皆さんお一人お一人の力強い誓いの言葉を聞かせていただきました。看護の道を歩む決意をしっかりと表しどれも立派で心から嬉しく思いました。今日立てた誓いは皆さんにとってとても価値があるものだと思います。これからの長い看護師人生の中では辛いことや迷うことがあると思います。そんな時に今日の誓いの言葉を思い出してください。誓いの言葉は看護職を目指そうとした純粋な初心に戻してくれるでしょう。そして前に進む勇気を与えてくれる魔法の言葉になると思っています。

さて、皆さんは入学前から新型コロナウイルス感染症によるイベント制限を受けました。世界的で歴史的な人類の危機パンデミックに遭遇しました。本校でも入学式はじめ儀式の参加者制限を行うことになり地元自治体の代表の祝辞や激励を直接受けられない事はたいへん残念に思います。

このコロナ禍の制約のように自分の努力では避けられない辛い現実を味わう事は患者さんが病気になった時に似ています。患者さんの立場になって考え寄り添った看護ができるようにこの経験を是非活かして欲しいと思います。自分を主張せず相手に配慮できる人間性はケアの本質につながります。

さて、皆さんが引き継ぐ看護の心はナイチンゲールにつながります。一昨年5月に生誕200年を迎えたナイチンゲールは、クリミア戦争に看護師として従軍し、多くの傷病兵を不衛生な環境下で看取りました。一方で、整理整頓され衛生環境が整った病棟では亡くなる方が少なかったため基本的感染対策の重要性を論文に発表しました。私たちは今、新型コロナウイルス感染症に対し、混雑を避け換気をし、マスクを着用し手指消毒するなど、ナイチンゲールの指摘した基本的感染対策で戦っています。科学の進歩でワクチン開発は短期間で可能でした。しかし変異株の出現などで簡単に撲滅できません。このように医療は進歩しても容易に解決できない事は多く平均寿命が延びる反面医療ニーズは増えています。

皆さんは1年余りの間に新しい医療や医学、看護学を学びました。加えてコロナ禍により日常生活を失って当たり前の大切さをあらためて知る恵まれた体験をしました。これら多くの学びから患者さんへのケアの基本姿勢を今日の誓いにまとめてくれたものと思います。

これから本格化する臨地実習は学んだ知識や誓いを実践する時期になります。学んだ知識や技術に十分ということはなく、不足を学んでください。加えて医療は不確実で簡単に正解が見えないと知ってください。そこでチームが一丸となって情報を収集し共有し、情報を積み重ねて評価し判断します。この作業を繰り返し、最善の結果や患者さんの納得に導いていくことが目指す医療の形です。

この間健康を害した患者さんは常に動揺し、時には寄り添うことを拒み言うべき言葉を失うこともあります。そんな患者さんに寄り添い形に表れていない患者さんの心の傷を癒すことを心がけてください。患者さんが自分を取り戻し、自分の言うべきことに気がつくように心配りをしてください。そんな働きかけにやがて患者さんは人への信頼を取り戻し、警戒心や恐怖心から解き放たれ、傍に寄り添った皆さんの存在に感謝するでしょう。そんな心震える経験を夢に見て実習に出てください。

患者さんに注目するためには日常生活での相手への配慮を実践してください。挨拶や礼儀、電話の取次ぎや面談に際しての相手への気遣いなど些細で日常的な気配りが患者さんの心配や困りごとを患者さんに代わって見つけ出す力になります。患者さんの困難や課題に意識を集中するといつしか自分の不安を気にすることはなくなっていくものです。私はそんな「患者さんファースト」の心こそ看護の基本姿勢だと思っています。

そうは言っても必ず困難な場面に出会うと思います。その時必要なのは決して諦めない辛抱強さです。そして、いつまでも待てる忍耐力です。さらに困難に立ち向かう勇気と患者さんへの思いだと私は思っています。

人への気遣いは大切ですが自分へのいたわりも忘れないでください。時には自分の時間を持ち完璧でない自分をいとおしむ時間も大切です。

今日は、今ある自分を振り返り、これまで有形無形にご支援をいただきましたご両親様ご家族様関係者の皆様に感謝の念を持つ機会にしてください。謙虚に感謝する姿勢は必ず患者さんに通じる力を増すと私は信じています。

終わりに、本日ここに集まった皆様のご健康とご多幸を祈念し、校長式辞といたします。

令和4年5月27日

新潟県立十日町看護専門学校長 塚田芳久